

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501078
法人名	医療法人 光輪会 大牟田セントラル・クリニック
事業所名	グループホーム フェニックス苑
所在地	福岡県大牟田市新町395
自己評価作成日	平成24年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月22日	評価結果確定日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームフェニックス苑では木造建築で家庭的な環境を提供していて、入所者がその人らしく過ごすことを目標にしている。入所者がこれまで過ごしてきた生活の場と同じような環境の中で安心して暮らしていただけるように配慮している。運営母体が医療法人であるため医療との連携による健康管理を行い入所者また家族の方より安心していただいている。季節感のある行事を行い毎日の生活を楽しくいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧三池街道から少し入った静かな場所にあり、ホームの向かいには公民館や公園が位置している。以前は寮であった建物を改修しており、施設的ではない、家庭的な雰囲気がある。医師である法人代表者により、日々の往診が行われ、管理者も看護師であることから、医療的なケアや終末期への支援についても、出来る限り個別のニーズに対応している。今年4月に開設して12年目を迎え、2階建ての建物には新たにエレベーターも設置される予定となっており、行政や母体法人との連携を深め、現状の再確認を行い、課題に向き合いながら、重度の方や困難事例への対応を通じて、地域のニーズに応えようと取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念→「笑顔・尊敬・尊厳・安全」 基本方針→「地域社会の一員として生活し、地域に貢献すること」を掲げている 日々の業務で笑顔と尊敬・尊厳・安心を共有し実践している。	フェニックス苑としての理念は、目に付きやすい場所に掲示され、関係者間での共有を図っている。 また、毎朝の申し送りの際に確認を行い、実践に結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事への参加、公園への散歩で地域とのつながり、交流を図っている 公民館行事のどんど焼き参加、大蛇山作り見物、大蛇山見物と交流を図っている	近隣に公民館が位置し、どんど焼きへの参加を継続することで、地域との交流が深まっている。また、大蛇山の作成時や祭り見物、近隣スーパー利用の際にも、地域の方との交流の機会がある。現在、1名の方が、地域の美化活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館行事への参加では、地域の方より心温まる声かけをして頂き、グループホームの理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当苑の現状報告し、今後の課題を各委員、ご家族の意見をサービス向上に活かしている。運営推進会議での外部からの助言や意見を傾聴、運営に活かすよう取り組んでいる。	入居者、家族、町内理事、児童民生委員、あんしん介護相談員、市町村担当者、包括支援センター職員等のメンバー構成にて、2ヶ月に1回、定期開催されている。相互の情報提供や、運営面や現状の課題について、忌憚のない意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あんしん介護相談員との意見交換会、長寿社会推進課職員との交流で情報交換を行っている。今後は社会資源の窓口、連絡相談の窓口として連携を図って行きたい。	運営推進会議には、大牟田市担当者、包括支援センター職員、あんしん介護相談員の参加を得ている。制度の不明な点や困難事例への対応については、電話や直接窓口を訪ね、相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」の研修を行い、何が拘束となるかを正しく理解し、拘束のないようにしている。玄関に施錠することがない、また言葉、ケアに関しても「身体拘束」とならない様、話し合いを行っている。	日中の施錠は行っていない。馴染みの関係性を重視し、法人内の異動は行わない方針であり、安心して過ごせるよう配慮されている。食事の時間やペースは個別性を尊重し、言葉による抑制についても意識を高めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で無意識に虐待を行っていないか、又、虐待の事例にあたらぬ全員で意見交換を行い、適切な介護を行うようにしている。		

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護全般に関して、外部や内部研修会で職員の意識向上に努めている。法人に関する弁護士が年に1回グループホームを訪問し、家族の相談に対応できる体制がある。	現状として、権利擁護に関する制度を活用している方はいない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、継続した研修の機会の確保や、契約の際や運営推進会議等を活用しながら、家族や地域に向けた情報発信に期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に十分時間をかけて説明を行い、理解、納得を得られるよう心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を引き出せる環境を作り、出された意見、要望をケアに取り入れている。また、あんしん介護員の定期的な来苑を受け入れ、利用者の相談相手になって頂いている。当苑の玄関にて意見箱を設置している。面会、家族会時気付かれた事を伺い対応している。	大牟田市の派遣する、あんしん介護相談員を受け入れ、運営推進会議への参加も得ている。運営推進会議開催後に茶話会を開いたり、毎月の支払いの際の来訪時等に意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝カンファレンス、苑の勉強会、連絡ノートに意見や提案をもとに皆で検討し、意見を運営に反映させている。	毎朝のカンファレンスや申し送り連絡ノートへの記載を通じて、職員意見の収集や検討を行い、業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各スタッフの努力、勤務状況を把握し確認している。労働時間も法令遵守している。年に数回の食事会、慰安旅行なども企画、実行している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、資格者を優先にしているが、年齢や性別などは規定していない。常に経験や実績などは配慮し、また能力を持っていれば発揮できるよう配慮している。	ヘルパー2級以上という資格要件はあるが、年齢や性別による排除は行わないようにしている。常勤採用が基本となり、異動も出来るだけ行わない方針である。法人としての研修旅行(海外)の機会もあり、費用もサポートしている。法人全体の研修体制やホーム独自の研修も行われており、職員が持ちまわりで講師を務める予定となっている。外部研修への案内も行っているが、参加者は少ない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会を行い人権教育に取り組み人権尊重の意識付けに努めている。毎朝カンファレンスを行い日々のケアに「尊重」を忘れないよう声かけをしている。	法人としての全体研修や内部での伝達研修、また、日々の申し送りの際にも、様々な視点から、人権尊重への意識を高めるよう努めている。	

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に積極的に参加している。毎月伝達研修に取り組み研修内容が業務に活かせるように職員全体の意識向上に努める。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者協議会、認知症ケア研修会に加入し、研修の機会を通じて同業者とも情報交換、サービスの質の向上の取り組みに心がける。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず事前面談を行い、ご本人の話を傾聴し生活状況、状態の把握に努め、また少しでも入所当初の不安混乱を緩和するように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会や面会、お便り等で家族との交流の場を持つ事によって、生活状態を知って頂いている。また家族の方の相談や要望に解くよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みや相談を受けた時に現在のご本人とご家族の状況等を聞き、その時点で何が必要なのか見極め何が心配化相談に乗り紹介する様にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の困っている時や落ち着きのないときはゆっくりと話を聞くよう心がけ、また家族より昔話、体験談等聞かせて頂き私達も勉強になり入居者の笑顔も見られる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り、電話、面会を通じて、日々の生活状態を報告している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の面会は歓迎している。また地域の祭り、買い物、散歩等、地域の方の交流も喜ばれている。本人様の想いに応えられるよう支援している。近所の公園にて毎年正月にどんど焼きに参加させて頂き、季節に応じて自然の景色の観覧へ散歩等を行っている。	編み物等、趣味活動の継続を支援している。また、近隣の公民館行事への参加やスーパーの買い物を通じて、地域の方との交流の機会がある。法人として、職員の異動は行わない方針である。個別の馴染みの関係性については、関係者の協力も得ながら、把握していくことが期待されます。	

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	テーブル、ソファ等の位置、その時の心身の状況を把握し 席を変えてみたり、本人様達で変えられている。また職員が 間に入り利用者同士が助け合いよい関係が出来るよう 努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切 にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、 相談や支援に努めている	退居後も情報交換を行い、いつでも立ち寄って頂ける 様に声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族より生活歴や在宅での生活の様子と意向、 現在の心身状況を把握し日々の生活の中で変化があれば、 その都度職員間で本人本位での対応が出来るよう心が けている。	個人記録からは、日常の中での発言や心情の変化を 大切に捉えようとしていることが伝わる。日々の申し送 り等にて情報共有を図りながら検討を行い、本人本位 の対応に努めている。	アセスメント情報としては、生活歴やライフスタイル、 馴染みの関係性等のこれまでの暮らしに関する記載は少 ない。職員の新たな視点の確保も含め、入居者個々の理 解や暮らしを支えていくためのアセスメントの充実に 取り組むことが期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家庭の面会時、電話等で在宅での生活の様 子、生活歴、性格また在宅サービス、医療面を聞きな がら処遇している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	毎月の状況(体調面、精神面)変化を早く察知し、その 情報を職員間で共有し処遇にあたる。チームケアの充 実。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	本人が本人らしく死での生活が送れるよう、本人・家 族の意向を聞きながら職員間の意見を参考にして当 苑の状況を考慮し計画をたてる。センター方式を取り 入れて介護計画を立てることが一番ベストと思われる が、現状ではまだその体制にはなっていない。今後の 検討課題	日々の申し送りや話し合いの中で職員意見を収集し、 介護計画を作成している。チェック表により、日々の 状況を確認しながら、介護計画の見直しに活かせる よう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や 介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子(健康面・精神面)を個人の台帳に記録し、 特記事項があれば申し送りノートに記載したり、昼 食時に職員間の情報共有をしている。		

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時や家庭の面会時、電話等で在宅での生活の様子、生活歴、性格また在宅サービス、医療面を聞きながら処遇している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加中。会議の際、ケアマネジメントについての意見交換を行い参考になっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理は、かかりつけ医のクリニックDrにより適切な医療を受けている。かかりつけ医の毎日の往診があり適切な医療を受けられている。また家族が望まれた時は看取り介護も実施している。	医療的な管理が必要な方も多く、医師でもある法人代表者により、日々の往診が行われ、歯科の往診体制も整備されている。他科受診については、家族の協力も得ながら支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師でもある管理者やスタッフの看護師、クリニックの看護師が業務を行い、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、その病院に利用者さんの容態等を随時聞き、病状を把握し安心して退院できるように、また退院後の受け入れ準備を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、契約医療機関との連携の中で職員と対応について協議し、医療担当者の助言を求めて家族の希望を受け入れる方向である。	入居時に、「看取りに対する取り決め」について説明を行い、同意を得ている。また、状況に変化に伴い、家族や医師を交え話し合いを行い、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人一人の健康チェックを日頃、バイタル表で行っている。利用者の体調に変化があった場合は、かかりつけの医師に報告、その後支持をおおぐ。周囲の職員にも申し送る。		

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	介護者全員が避難経路を把握し、誘導できるように訓練している。外部に一秒でも早く知らせるように心がけ、火災通報を行う。年2回火災訓練を実施している。	年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を行っている。その際には、火災以外の災害対策についても、アドバイスを受けている。隣家への声かけも含め、地域への協力要請を行っている。	2階に居室が位置することや、1階の生活環境、入居者の方々の状況を踏まえ、地域や法人内の連携体制を深めながら、より実践的な訓練となるよう取り組んでいくことが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格尊重を重視し、プライバシーを守る。利用者の言葉かけには人格を損ねないように気をつけている。利用者個人個人の性格と習慣を把握する。今後も継続していく。	特に、排泄ケアや入浴支援の際の声かけや対応には留意している。また、情報収集を行う際にも、目的を十分に説明している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、散歩、買い物、個別活動などは、利用者の体調、気分に合わせ応じた支援に取り組んでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的に散髪に来てもらい、本人の希望を聞いて散髪したり、洋服を選んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来てもらい、本人の希望を聞いて散髪したり、洋服を選んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で作ったものを利用している。無理のない範囲で準備、片付けの声かけをする。利用者全員が同じホール内で食事するようにしている。介助の方は誤嚥に注意しながら楽しく食事をしてもらっている。	法人厨房での調理となり、ホームでは、朝・夕の炊飯が行われている。力を発揮できる場面に配慮しながら、食事の開始やペース等、個別性を大切にされた柔軟な支援が見られた。外食等の機会はないが、時には晩酌を嗜む方もおり、楽しみな時間となっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事摂取量は毎日記録する。自分で摂取できない利用者は介助し、栄養摂取と水分確保をする。		

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所まで歩いて行ける方には、自分で歯磨きをして頂く。また義歯の方はスタッフの方で磨いている。また緑茶での口すすぎを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で排泄の出来る方には自分で行ってもらい、足元のあぶない方には付添い、必要に応じては介助、また車イスのかたはポータブルトイレ介助を行っている。車イスの方でも尿意のある方にはポータブルトイレ介助を行い、排尿・排便をしてもらっている。	排便の状況については確認が行われているが、排尿の状況については、特に記録されていない。日中、夜間と、時間ごとのトイレ誘導を行っている。	個別の排泄パターンやリズムを把握し、尿意の有無や伝達能力、排泄動作等を確認しながら、様々な可能性について検討していくことも必要ではないでしょうか。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便表を作成してあるので、3日目になって排便がない場合、医師または看護師の支持を仰ぐ。水分は大目に摂って頂く。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望を尊重し、また体調に応じて入浴を施行している。月に一度は花の里デイホールの大浴場へ送迎をして頂き、入浴を施行している。	基本的には、週2、3回の入浴日を設定している。状況に応じて、シャワー浴や清拭にて、個別対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調等を考え、また季節に応じて寝具やエアコン等の使用にて室温を保ち、快く休息、安眠して頂くよう心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、名前を声を出して確認し、飲み込みまで見守りをし確実に飲んで頂く。また副作用等の症状が出た場合、直ちに医師、看護師に報告する。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は戸外に出て公園等の散歩や季節の花々等の見物、また手先の器用な方には編み物や洗濯物たたみ等手伝って頂く。誕生日にはケーキを食べビールやワインで乾杯もあり喜ばれている。		

福岡県 グループホーム フェニックス苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社や公園へスタッフと一緒に散歩に出られる。利用者に合わせ車イスで外庭に出たりして外を眺めて頂く。歩かれる利用者は外庭をスタッフと一緒に歩く。	生活環境や入居者の方々の状況から、必然的に個別の外出支援が中心となる。重度化している状況の中で、外出の機会は少ない。	個別の状況を鑑み、短時間でも日光浴を行うことや、家族や地域の協力、また、法人内の連携も活かしながら、戸外に出かけられるよう取り組むことが期待されます。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者本人のお金の所持はおられない。施設で管理、またはご家族が必要に応じて持参される。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等に電話の希望をされる時は、電話の取次ぎをする。会話中の見守りをする。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けや四季折々の花などを飾るようにしている。テーブルやソファなど、自宅に置かれているような物を使用している。清潔を保ち季節感がわかる花や物など取り入れる。入居者全員が集うホールにゆっくりできるスペースがある。	以前は寮であった建物を改修して運営されている。ゆとりある広さのリビングにはソファが配置され、くつろぎの場所となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子で各自が好きな場所でゆっくりされたり、テレビを観たり出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの日用品などを置いている。各部屋にテレビを置き、好きな時間に見れるようにしている。家具は危なくないように、使いやすい位置に置いている。	既存の建物を改修して運営されており、2階の居室へは階段での移動が必要となる。移動が可能な方の居室には、テレビや筆筒等の馴染みの物が持ち込まれている。現在、エレベーターの設置が予定されている。	移動が困難な方も多く、1階スペースでの暮らしには、プライバシーやQOLの確保に向けた更なる配慮が求められる。行政担当者との連携を図りながら、生活環境整備への取り組みが必要です。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に名札を使用したり、飾りを付けたり、トイレ等、場所が分かるようにしている。		